

第2回池田町学校あり方検討委員会 会議録

日 時：令和7年9月16日（火）10：00～11：25

場 所：池田町役場 3A会議室

出席者：検討委員会委員 23名

池田町教育長、事務局 6名

1 開会

皆さま、おはようございます。定刻になりましたので、只今から第2回学校あり方検討委員会を開催いたします。はじめに本日の資料の確認をさせていただきます。委員の皆様、過不足ございませんでしょうか本日の検討委員会の予定時間は1時間30分ぐらいを想定しておりますので、議事の進行を効率的に行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。開会にあたり、第2回検討委員会までの経緯と本日の検討委員会の内容を含めまして教育長よりご挨拶いたします。教育長よろしくをお願いします。

2 教育長挨拶

失礼いたします。本当に今日はまだ暑い中お集まりいただきました。ありがとうございます。6月に第1回の会議を開いていただいて、このあり方の検討が、具体的に進めることができました。本当にありがとうございます。6月に開いていただきまして、その時も話題にさせていただきましたけれども、アンケートを取らせていただきました。そのアンケートの元は今日、手元に置かせていただいておりますけれども、子供たち小学校4、5、6年生と中学生に行っております。1,000名ぐらいの回答をいただきました。それから保護者の方々へ同じようにアンケート取らせていただきました。本当にありがたいことに、1,000、これも900いくつということで、たくさんの方からアンケートいただきました。非常に関心が高いことなんだなと思いました。今日は、そのアンケートに基づいた形で、色々こちらでご説明を差し上げます。ご意見を出していただけるとありがたいなと思います。次第にございますけれども、アンケートの結果の中から、やはりこういうふう子供が減ってきたということは適正規模について考えなきゃいけないのではないのかっていうご意見いただいております。一番目というふうにありますけれども、小学校の適正規模についてということで、ご議論をいただければありがたいなと。それから自由記述で、地域の方からいろいろご意見をいただいた時に学校は地域になくちゃならないものじゃないかというようなことで、地域の活性化、これについてもやはり考えていかなきゃいけないということで、主に今日はですね、その2つを議題としてあげさせていただきましたので、それについてご議論いただければと思います。前回の時に、もうこれは事務局から案を出して進めたらという話もございました。まだアンケートの集計が終わったところで今日はまだ事務局は案を出しておりませんが、今日も皆さんからいただいた方向をもらいながら、次回以降のところを出させていただきたいなっていうふうに思います。ですから、今日は本当に自由にですね、いろんな観点からこう思うということ、ご意見を

聞かせていただきたい。本当にそう思います。次からはこれについてどう思いますかということで、話を進めていきたいなというふうに思います。それからもう一つですね。前回財政面のことについても考えていかなきゃいけないじゃないかというご意見をいただきました。これももちろんそうなんですけど、今日はまだ準備ができておりません。と言いますのは、まず建設費等の値段が非常に高騰しておりまして、なかなかですね、どのレベルでこう話をしていくのか。例えば義務教育学校なんて話題に出て、マスコミ報道ですと川辺町が 50 億かかることが出たり、この間も大野町が 60 から 70 億だけど、まだこれから次第では上振れするかもしれないという町長の答弁が議会でありまして、これについてももう少し学校の規模をどうするなんていうことも含めて、次回出させていただきたいと思いますので、ご容赦いただければと思います。それでは今日はまた限られた時間ではございますけれども、ぜひご意見をいただきたいと思います。 よろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。それでは次第の方に従い進めさせていただきます。3 番の議事に入りますが、これより進行の方、委員長の方をお願いしたいと思います。委員長、よろしくお願いいたします。

3 議事

(委員長)

おはようございます。委員長にご指名いただいております、岐阜協立大学の竹内です。ここから私の方で進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。 それではお手元の次第、議事 1 について、「今求められている教育について」ご説明をお願いします。

(教育長)

お願いいたします。パワーポイントの資料をご覧ください。いちいち全部説明しませんが、方向性だけお話をさせていただきます。少子高齢化が進む中で、令和の日本型学校教育ということで、文部科学省の方から資料が出ております。1 ページ目ですけれども、一人一人の生徒が自分の良さや、それから 2 行目です、あらゆる他者を価値ある存在として、多様な人々と協働、共に働き、働くという字が書いてございますが、協働しながらっていうこういう社会を作っていかなければいけないということで 2 ページ目です。では学校でどうなってるのかですけど、皆さんご存じの通りタブレットが行き渡っている。これがどういう発想なのかというと、個別最適な学びという、こういう表があるんです。各個人がそれぞれ自分の進度具合、そういうものに合わせてタブレットでみんな自分なりに自分の問題を自分に適する問題が出てきたりして。ともかく、まず個別一人一人一斉の授業じゃなくて、個別最適な学びをする必要があるというのは一本の筋として出ていくと思います。その反面、反面というか、それと同じ同時にですね、2 番目。じゃあ、コンピューターに向かって一人でやってればいいのか。いや、そうじゃないでしょう。というのは 2 番です。協働的な学びをしていかなければならない。この 2 つを、学校の教員は今求められているんです。個別最適な学びをしていくのと、協働的な学びをしていかなければいけない。個別最適な学び、協働的な学びを読ませていただきますと、個別最適な学びが孤立した学びにならないように、最後ですね。最後に、子供同士であるいは多様な他者と協働しながら。前回の時に池田町の教育大綱を示させていただきましたが、そこの中に子供同士という言葉に町長は非常にこだわりました。子供同士の学びを大事にしていかなければいけないんじゃないのかっていうのが今求められています。で、3 番で

す。3 ページ目で目指す姿として、1 番目は ICT の話です。学校ならではの児童生徒同士の多様な他者と協働したそれから、これが多分出てきますけど、地域の構成員の一人としての力を育成しなければいけない。ここでやはり地域を大事にしなきゃいけないと出てまいります。で、4 ページ目でございます。なぜこういうことを言い始めてるのかっていうと、これも皆さん、特に会社の方はお気づきかと思いますが、今まで、今までは高校へ行って、中学校からあるかもしれませんが、ある年齢で終わってみんながそこで新卒で仕事に入り、それが 60 歳なり 65 歳なりを終えて、そこで引退をしていくというほとんどの方が同じようなラインをたどっていたであろう。ところが、今これはもうこういうラインっていうのはそんなに多くないですね。 マルチステージモデルだというのは今言われております。フリーターをやることもあるかもしれないし、学び直しでまた大学に行くかもしれないし。そういうことで 100 歳のところまで書いてあるんですけど、いつ引退なのかは分かりませんが、自分で自分の道を決めていかなければいけない時代に入ってきている。こういう今までの人生とは違うんだっていうのを国の方は強調しております。次のページに行きます。では、そういう中で学校の適正規模について、国はどういうふうに考えているかということで、この冊子は前回付けさせていただきましたが、まとめた部分がございます。児童生徒の集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくことが学校なんだということで、小中学校の一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考えられる。これは文部科学省の資料です。それを受けまして、学校教育法の施行規則で小学校の学級数は 12 学級以上 18 学級、1 学年 2 から 3、を基準とする。ただ、これは相当前、昭和年代から、これは変わりません。それで地域の実態、その他による特殊の事情のある時はこの限りではない。この項目があるので、今まで 1 学級のクラスもあったというのが現状でございます。ただ、この間、前回お見せしましたけれども、今までも池田町のある小学校は 1 学級でずっと来ました。ただ、それはやはり地域の実情があるからでしたけれども、この間の資料で本当に多くの学校が今、ずっと 1 学級に。ほとんどの学校がなりつつある。一校を除いて。でもやはりそれは考えなきゃいけないじゃないのかということで、こういうふうに今話し合いを持たせていただいております。それから次のページでございます。学校規模適正化についての基本的な考え方ということで書いてございます。これは見ていただければということで、最後ですね、下から 4 行ですね。これ我々教育行政をやっております、先生方に学校行ってもらわねんですけど。下の 4 行です。一定規模の児童生徒集団が確保されていることや、その次、経験年数専門性男女等について、バランスの取れた教職員集団が配置されているのが望ましいと文部科学省も言ってきておるところでございます。ただ、最後のページです。最後のページで、今日もご議論いただきますけれども、学校が果たしているのは、子供達の児童生徒の勉強だけではないんだと地域のコミュニティの核。ここはですね。地域コミュニティの核に今までなっているんだと。一行目の終わりですけれども、各地域のコミュニティの核としての性格を有するものである。それが一段目の終わりのところなんです。まちづくりのあり方と密接不可分であるという性格を持っています。ですから今日も区長さん方にもおいでいただいておりますけれども、今までの役割っていうものをどういうふうに維持しながらやっていくのかっていうことについては、これご議論いただいて、池田町なりの方向性を探していければというふうに思います。議事 1 つきましては以上で説明を終わります。

(委員長)

ありがとうございました。今のご説明につきまして、ご質問などございましたら、お願いします。よろしいでしょうか。先に進んでいきたいと思えます。議事の 2、小学校の適正規模についてアンケート結果からということですが、これについてのご説明お願いいたします。

(事務局)

よろしくお願いします。資料の 2 をご覧ください。こちらをもとに説明をさせていただきます。アンケート結果ですが、アンケートは保護者、地域住民の方、教職員を対象にした、いわゆる大人向けのアンケートと小学校 4 年生以上中学校 3 年生までの子供を対象としたアンケートと二通りございます。初めに保護者、地域の方、教職員を対象としたアンケートの集計について話をさせていただきます。まず 1 ページをご覧ください。回答①回答者の属性ですが、保護者が 8 割以上というような回答になっております②が年代、それから③が校区別の割合になってます。次に 2 番の幼児教育・学校教育に対する意識というところです。学校教育でも幼児教育でも安心安全の居場所というところと、思いやりの心を育てるところは共通して高いんですが、違いとして学校教育では次に表現力コミュニケーション能力を伸ばしてほしい。それから学ぶ意欲を伸ばしてほしいというところに保護者や、地域の方、教職員の思っているのが違いとして現れています。次のページをご覧ください。3 番が園の園児数に対する意識というふうで、園の保護者の回答になっております。このような形で、満足や、やや満足が 92%というところで、それぞれの理由等も記載してあります。次に学校の児童数、クラス数についての意識に入ります。⑨のクラス数。1 学級当たりの人数は何人が望ましいかというところで、保護者の方も地域の方も教職員も 20 人から 29 人ぐらいが最も望ましいであろうというふうな回答を寄せていただいています。その理由として 11 番のところですが、このような理由をあげられておりますが、少し保護者と地域の方、教職員の方で意識が違っていて、保護者は 20 人か 29 人とか、それ以外のところも含めてですが、競争意識が働くことが理由としてあげられていて、次にクラス内の人間関係が深まるというところを大事にしたい。というところをもとに、クラスの人数を判断している。地域の方と教職員が同じなんですけど、一番は一人一人に目が行き届くから。というところが地域の方、教職員は大事にしたい。次にクラスに多様な人間関係があること。というのを大事にしたいというところで、保護者の方と地域の方、教職員の方というところで少し分かれています。次のページをご覧ください。⑩を飛ばしましたが、今の児童生徒数についてどう思っていますかというところではやっぱりちょうど良いと答える割合がそのまま学校の規模と相関、というかそのままの順番になっています。というところも一応入れておきます。次のページをご覧ください。小学校のクラス数に関する意識です。1 学年あたりの望ましいクラス数は何クラスが望ましいかというのが 12 番のグラフになりますが、2 クラスが一番望ましいと考える方が多くて 56%。3 クラス以上が 37%。合計 93%の方が 2 クラスもしくは 3 クラス以上が望ましいであろうというふうなことを考えていらっしゃる。13 番のグラフが 2 学級以上の方が良い理由というふうで、800 人の方の理由がやっぱり一番がクラス替えができるというところが一番で、次に三番目のところですね。仲間の中で多様な考えが学べるというところで、やっぱり 2 学級以上がいいのではないかとというふうに考えてらっしゃいます。次に単学級、複式の方が良いと考えている方が、保護者だけではなく、地域の方も含めてですが、59 人おられます。この 59 人の中に、なんでその単学級がいいのか複式がいいのかというところ。やっぱり個別に行き届いた指導ができるんじゃないかというところ、次にクラス替えがないことがメリットではないかというところになって

います。そこで少し 2 学級以上の方がよいというところと単学級の方が良いというところで違いが出てくるかなと思います。多くの中で多様な考えを学ぶことが大事なのか、個別に行き届いた指導をすることが大事なのかというところで、少し観点が変わってくるのかなと思います。次に 6 番の学校規模適正化に関する意識というふうで、15 番のグラフをご覧ください。これ教員に聞いた設問です。このまま学校規模が縮小していくとどんな心配があるのかということに対して一番は学校規模が減れば校務負担が増えてしまうという不安を学校は持っています。学校規模が小さくても、ある程度の役割というのはあります。例えば一番今のところ学校規模が小さい宮地小であっても、15 の主任とか担当というのがあって、それを 5 人の教諭と 1 人の講師で回しているような状態。一人何役人権やった後は学習指導部長をやって、さらに研究主任もやってというふうな形で一人何役も持ってるような形になっていくということを心配していると。あとは多様な指導方法ができなくなるんじゃないか例えば 2 クラスで、3 つに分けて少人数をやっていくとか、そういうことも難しくなっているんじゃないかっていうところにあるとか。専科教員の配置というところですね。もう既に特定の教科の先生がいない学校は多くあります。例えば社会の先生、いわゆる社会専門先生が一人もいないとか。池田町の規模でも、理科の専門の先生が一人もいないとか、そういったところがありますので、どんどん規模が縮小していくと、そういう先生がいないということになっていくのではないかと懸念されています。次に 16 番をご覧ください。これが保護者、地域の方、教職員への最後の質問になります。学校規模適正化のために、何を大切にしたらいいのかというところで一番は教職員の確保です。次に学校への移動時間とか通学手段。最後に三番目に多いのが、生徒数、学級数を確保することが大事なんじゃないかというふうなご意見をいただいています。以上が大人へのアンケートの結果です。次に子どもへのアンケートの結果に行きます。4 ページ目をご覧ください。まず 17 番のグラフをご覧ください。大体、中学生が半分、小学生が半分というふうな回答になっています。18 番を見ると、学校は楽しいかっていう質問に対して、小学生の 90%以上が、とても楽しい、まあまあ楽しいと答えている。中学生も 90%以上が、楽しいと答えていると。そんな状況で、では何が楽しいかと聞くと、小学生も中学生もやっぱり友達との時間が一番楽しい。もしくは休み時間が一番楽しいというのは小学校でも中学校でも同じ傾向です。何が楽しくないか。全体数が少ないのですが、授業が楽しくないというのは小学校も中学校も同じです。小学校はそこには同じなんですけど、中学校でいうと少し授業以外の時間も楽しくなかったりだとか、先生との時間というのは先生と十分に話をする時間がないということなんですけど、これが楽しくないんだよっていう子も若干います。ただ、母数が少ないので、一応例えば授業が楽しくないって言ってる子以上に、委員会活動が楽しいと言ってる子の方が池田町は多いというところは確認をしていただきたいなと思います。次に 5 ページをご覧ください。まずはクラスの人数は何人ぐらいがいいのかというところで、24 番のグラフ。小学生の 5 割以上が 20 人から 29 人。それから 30 人から 35 人が 18%で、10 人から 19 人が 23%というふうなグラフになってます。それに対して 25 番。中学生は 30 人から 35 人が 51%。20 人から 29 人が 36%というふうに、小学生と中学生で、少し意識が変わってきてます。特に中学生ぐらいになると、やっぱり小学校の 1 クラスの人数も含めて、ある程度人数がいた方がいいんじゃないかという意見を持っています。その理由として 26 番。小学校と中学校であげてますが、一番多いのはやはりクラスメイトの多様性。これ本来の言葉で設問だとクラスの中にいろいろな人がいるから楽しいと書いてる子がやはり一番多いというふうで、ある程度人数が多い方がいい

と答えてる子が中学生になったら増えるというふうなことです。その人数が良い理由というのが 27 番と 28 番、それぞれ小学校、それから中学校、それである程度多い人数がいいと書いていること。19 人以下の少人数がいいと書いている子で、分けて書いてありますが、やはり 20 人以上がいいと書いている子はクラスメートが、いろんな人がいるから楽しいよ。それから学級に活気が出るよ。クラスがまとまるんだ。人が多いからこそクラスがまとまるんだという意見を持っている。逆に 19 人以下の少ない人数が多い子の理由としては、クラスが少なくないとまとまらないじゃないかっていうふうで、クラスがまとまるためには少ない人数がいい。それから、人数が多くなると授業が騒がしくなるんじゃないかっていう懸念を持っています。というふうなことがわかります。では、次 6 ページをご覧ください。先ほどは 1 クラスの人数でしたが、今度は 1 学年何クラスが良いかという設問です。29 番のグラフ。3 クラス以上が 61%。2 クラスが 24%。1 クラスが 14%、複式が 1%ということになっています。大人は 3 クラス以上が 37%でしたから、大人と比べて子供の方が 3 クラス以上希望してる人が多いというふうで、なぜかという、30 番が小学校。31 番が中学生の結果になっていますが、実際に 3 学級以上を経験している中学生の子が振り返ってみると、やっぱり多いクラスの方がいいんじゃないかって子供達は思っているというふうな傾向が分かります。次に 32 番をご覧ください。なんで少ないクラスの方がいいんだと思ってるかという、やっぱり複式とか単学級がいい子は小学校も中学校も同じで、クラス替えがなくて特定の仲間との関係を深めたい。それから同じ仲間だから、協力して頑張れるんだというのが、複式とか単学級がいいという子どもたちが抱いている思いです。逆に 33 番 35 番をご覧ください。これ 2 クラス以上がいいと答えた小学校、中学校の子たちの理由です。クラス替えができて仲間関係が広がるんだというのが一番。次に行事が盛り上がるんだっていうのが 2 番。それから多くの仲間と共に高め合えるんだというのが 3 番というふうに小学校も中学校もなっています。少し目指すところがここで変わってくるのかなと思います。特定の仲間と頑張れる子たちを育てて行くのか、それとも広い仲間関係の中で高め合っていくような学校がいいのかというところともつながっているのかなと思います。次に 7 ページをご覧ください。これで子供のアンケートの最後です。学校で今困ってることはありますかという設問です。小学校の 7 割の子が特にないと答えています。中学生ぐらいになると、5 割の子が、何らかの悩みがあるよっていうふうで書いています。この中でいうと、中学生は授業のことであるとか、授業が騒がしい、授業が分からないという学習に関してのこと。校則に関してのこと、それから、行事のこと。友達の関係。というふうで困ってることがある。小学校も少し数は少なくなりますが、同じように授業のこととか、あとは校則のこととか友達のことっていうところで悩みを持っています。それぞれ困っていることと、学級数とか 1 クラスの人数とかの関係はあるのかなっていうところで出してあるのが 37 番、38 番。それから 39、40 のグラフです。それぞれ困り事がある子は、その困り事とその望む学級の規模とかクラス数に関係があるのかなというのを調べたかったので、それぞれの割合を出したのが 41 番、数字だけだと母数が違うので、割合を出してます。41 番の表です。それをご覧くださいと、黄色のところが結構大きな 10%以上の差があるところ、赤いところが優位傾向ぐらいかなと思いますが、少し差があるところというふうで見えていくと、授業が騒がしいのに困っているというところで、学級の規模とかクラス数に影響しているというところで、もしクラス数とか学級の規模考えていく時にはやっぱり授業をきちっとやっていくというところをセットで考えていかなきゃいけないのかなというのを思います。あるいは自由がないとか友人との関係という

ころで、やっぱり 1 クラスの人数が少ない方がいいとか、単学級以下がいいよって思ってる子はやっぱり友人との関係っていうところに不安を持っているところが多いので、そういったところのフォローというのも考えていかなければいけないのかなと思います。ちょこちょこ見ていくと、給食のところで困っている子が差が出たりだとか、校則への意識とか、あるいは先生ともっと話がしたいとか、そういうところでも出ているので、そういったところを考え、子供目線に立った時に考えていかなければいけないのかなということがアンケート結果から分かりました。以上です。

(委員長)

ありがとうございます。ただいまのご説明につきましてご質問ございましたらお願い致します。特によろしいですかね。最後の集計とかですね。児童生徒さん一緒にしていますけれども、全体が違うというか、小学生は比較的クラスのニーズの少ないなかこう書いてるんですね。中学生はそうじゃないわけですよね。その前提が違うのを一緒に集計しちゃってどうなのかなと思いますが、いかがでしょう

(事務局)

分析の段階では一応小と中と分けて全部分析をしていて、その中からピックアップしたものをここに載せてるわけですけど小と中で差が大きかったところは今回小学校と中学校とかで分けて書かせてもらいました。最後の 7 ページのところですけど、これは実は小だけ中だけでもやってみたんですけど、あまり大きな差がなかったので、今回合わせた形で書かしてもらってます。

(委員長)

そうすると小学校に通っている環境であろうと、中学校に通っている環境だろうと、小さいクラスが好きな子はそういう形で返ってくるし、そういうことですね。

(事務局)

はい。大きな差はなかったです。

(委員長)

ということですね。はい、いかがでしょうか。

(委員)

前提として小学校には今、何人のクラスなのかがあまり分かってない。中学生は担任のクラスで何クラスなのか。前提としてお教えいただきたい。

(事務局)

はい、ありがとうございます。まず例えば 温知小学校は、5、6 年が 3 クラスずつで、その後他の学年が 2 クラスなのですが、人数は 1 年生が 23 と 22、それから 2 年生が 22 と 22、3 年生が 24 と 25、4 年生が 28 と 29。5 年生が 26、25、25。6 年生が 24、25、26 なので、大体 20 人、25 人前後で、八幡小学校が大体、1、2 年が 20 人ぐらい。3 年生まで 20 人ぐらいで 4 年生だけ 30 人、あと 5、6 年が 25 人ぐらいという学級規模です。宮地小が 13、8 で 9、5、11、14 人なので、15 人いないぐらいの規模になっています。池田小が 27、26、35、35、24、25、26 なので、何とも言えないですけど、大体 30 人いかないぐらいのクラスと、まあ 35 人ぐらい達しちゃうクラスがあるよというふうです。で養基小が 1 年生が 18 人、2 年生が 28 人、3 年生が 25 人、4 年生が 29 人、5 年生が 30 人、6 年生が 28 人ですので、大体まあ 30 人いないぐらいのクラスだけど、1 年生だけ 18 人しかいませんというかたちです。それに対して中学校は 7 クラス 7 クラス 6 クラスですが、どのクラスも 32、33 人ぐ

らいという規模になってます。

(委員長)

はい、ありがとうございます。他にいかがですかいろいろこれを分析されての町としての教育委員会としてのお考えとか何かありますか。

(事務局)

ありがとうございます。教育委員会で結果を見ながら、いろいろ話とかもいろいろしてるんですけど、クラス数に関しては、大人の方の意見も、子供の意見もやはりある程度の 2 クラス以上の規模があったほうがいいんじゃないかっていうところは共通してますし、学級人数のニーズについても、極端に少ない人数ではなくて、ある程度人数を確保した方がいいんじゃないかっていうところも共通してるので、方向性としてはそういう方向性がいいのではないかなというふうな思いを持っています。

(委員長)

今、人数のご説明があったのですが、出生数としては 2019 年以降ですよ。おそらく 10 年後とかは今の数より相当少なくなるかと思われます。そんな詳しいデータはないですけど、そういう傾向ですよ。

(教育長)

皆さまの机の上に学校のあり方ミーティングっていう紙、これ今日お渡ししたものであとでご説明しますが、このあり方ミーティングやった時の記録なんですけど、その 10 ページ、11 ページを見ていただきたいですけれども、10 ページのところこれと出させていただいた資料なんですけれども、確かに宮地小学校は先ほど言いましたけども、1 クラスの規模でずっと続いてまいりました。温知小学校からこういうふうな形で今来ているわけなんですけれども、先ほども言いましたがクラス替えができてくってということは 12 クラス以上のところで、クラス替えができる部分になります。そうして見ていきたいんですが、黄色いのはこれ養基小学校なんですけれども、ずっと平成の 20 何年からずっと下がって始めてましたけれども、赤い丸付けてございますけれども、最近令和 3 年くらいから本当に急激に下がり始めて、宮地が 5 クラスで、あれになりましたけれども、どこもこうクラス替えができないような状況に今なってきたっていうことです。今後の学級数の予想っていうのは 11 ページにございます。いろいろまだこれから転校してきたり、いろいろあったり、特別支援のクラスだったりのことがあるんですけども、単純に 35 で割ってきますと、温知小学校も令和 13 年には 10 クラスになっていくだろう、あるいは宮地小学校は途中から 5 だとか 4 だとかっていうふうな形になっていくだろうというようなことで、今会長さんおっしゃられましたけど、これからどんどんクラスの規模がクラスというか、学校の規模が小さくなっていくというところで、さあ、これからどういうふうに池田町として考えたらいいでしょうかってことで、ご意見いただけるとありがたいというふうに思います。

(委員長)

今このアンケートについてご質問やご意見はございますか。どうぞ。

(委員)

このデータ本当に細かく調べていただいて、分かりやすくいいなと思うんですけど、これは子供たちの意見というのは今現在の子供たちの意見ということになりますよね。それから、今後 2 年

後 3 年後、これから小学校に入るよという子どもたちの意見ではないということです。となりますと 2 年後 3 年後今現在幼稚園保育園にいる子供の数は今よりも今小学生だった子どもたちの数よりももっともっと少ないわけです。となりますと、このデータも意見が変わってくる可能性が十分にあると思うんですよ。例えば授業が騒がしいっていうのデメリットに挙げている子どもたちとかいるんですけど、やはりあと 3 年後 4 年後待ってみると。1 クラス 10 人しかおらんくなったらどうすんのか。騒がしいも何もなくなるよねっていうことを考えますと、この子供達のデータ本当に、今現在の状況ですごく分かりやすいんですけども、数年先のことはどうなるのかという子供のデータではないということもあり得ると思うんですね。ですが、そのことも合わせて、今後の将来のことについて考えていただきたいなと思います。

(委員長)

はい。他の方がいかがでしょうか。なかなかこのアンケートだけでどうというのも難しいかと思うので、先に総合的に聞いた方が良くと思うので進めます。続いて議事の 3 ですね。地域社会の活性化の維持についてということで。また事務局のからご説明をお願いします。

(事務局)

はい、失礼いたします。私からは議事 3、地域社会の活性化と維新についてをこれまでにいただいた意見をもとにお話をさせていただきます。私たちの地域にとって学校のあり方は教育環境を超え、地域全体の活気や未来に直結する重要なテーマであることを認識しております。それでは右肩に資料 3 とあるものをご覧ください。こちら 1 ページから 4 ページまでがアンケートの自由記述をまとめたもので、5、6 ページが学校あり方ミーティングで参加者からいただいた意見をまとめさせていただいたものです。本日の資料にはつけてございませんが、アンケートにつきましては、全回答者 864 人中 300 人ほどから自由意見をいただいております。少し抜粋して読み上げさせていただきます。少子化の影響で統廃合が進むことは避けられない。子どもや保護者だけでなく職員にとって安心して働けるよう早い段階から知らせてほしい。統合を考えるとすることは、子供を増やすことを諦めているように感じる。特性のあるお子さんが年々増えているので、教員数の確保、適正な教育を求める。地域の人との関わり、地産地消、体験活動など子供が毎日楽しみながら過ごせるようにしてほしい。統合することで地域の輪がなくなるのではないかと。統合した場合はスクールバスを手配してほしい。統合する前に学校間の交流をしてほしい。養基小は池田と揖斐川に分かれていますので、色々と複雑。町で分けた方が分かりやすい。不登校の増加も含めた多様な子どもたちのニーズに合わせて、特別支援教育の理解が大切だと感じるなどの意見がありました。次にあり方ミーティングの意見を抜粋して読み上げます。あり方ミーティングにつきましては 5 日間にわたり 5 会場で開催いたしました。5 会場総勢 141 名の保護者の地域の方にご参加をいただきましてそこでいただいた意見を読み上げます。温知小学校区、将来的にどう統合するかわからないが、早く教えてほしい。何年も統合について話し合うより、統廃合することを伝え、2、3 年でどのようにフォローするかを話し合った方が良く。中学生から大学生までこれからの世代の声を聞ける場があると良い。イエラプラン教育を取り入れるなど新しい教育法を考えるのも良い。今は学校区があってもすぐ近くの小学校でも行くことができないので学校選択制にしてほしい。次に八幡小学校区です。子供を増やすことをまず考えてほしい。幼稚園や小学校を統合するとさらに少子化が進むのではないかと。地域に魅力のある公園を作してほしい。バリアフリーの資料がないが、学校全てバリアフリー化してほしい。

インクルーシブ教育を取り入れ、子供の理解を深めてほしい。養基小学校区です。学校の跡地利用について考えてほしい。避難所として使用すると思うが、耐久性を含め使えるようにしてほしい。温泉バスやコミュバスがなくなって、交通手段が養老鉄道のみになる。スクールバスに子供以外も乗れるなど、高齢者や地域のコミュニティにも目を向けてほしい。不登校の増加について原因追及をしてほしい。宮地小学校区です。町民が負担する経費を明確にしてほしい。統廃合の話が急に出了ように思う。大野町や揖斐川町を真似しなくてもよい。この時間は子供がいると保護者は出にくいので、託児サービスがあると良い。安全のため学校内全てに監視カメラをつけた方がよい。今の子供を先生も楽しむ余裕がない。保護者先生、地域が協力して子どもたちを見守れると良い。最後、池田小学校区です。大野町は消滅可能都市には上がっていないので、大野町を参考にしてみてはどうか。小学校で1クラスだと嫌な子がいたら不登校になる可能性があるので、クラス数を増やしてクラス替えができるようにしてほしい。今は歩いて登校しているが、統合して距離がのびると心配。不審者が多いため地域の見守りが必要。このような会を保育園保護者に参加してもらうため、保育園で設けてはどうか。統廃合についてメリットデメリットの資料が欲しい。などがありました。少子化や人口減少が進む中、保育園学校の統廃合は避けられないという声もあれば通学距離の増加や統廃合後の学校の役割についての懸念が多く寄せられました。このような不安や懸念を解消するために地域と学校の連携を強化することが求められています。また、地域住民から寄せられた強い要望の一つに統廃合に関する透明性と情報提供があります。具体的には統廃合のスケジュールやプロセスについての詳細な情報を早期に提供し地域住民が安心して受け入れられる環境を整えることが必要だと考えています。最後に保護者や地域住民の声を直接聞くことが本当に大切だと、今回のアンケートやミーティングで再認識いたしました。町のホームページには意見箱を設置する予定です。アンケートに答えた方からもそうでない方からも意見を聞かせていただきたいと思います。今まで読み上げた意見の中にもありましたが保護者も地域も学校も全て地域の中で存在するというのもう一度再認識してお話を進めたいと思います。町民の皆さんが今後の園や学校の行方を自分事として考えていただけるような働き方を行いたいと思います。以上で終わります。

(委員長)

はい。ありがとうございました。これをコメント、意見を言ってくれて言われても、難しいだろうなというふうに伺って、ご発言いただくにしても、今のご説明を前提にしなくてもいいのかなという感じで聞きました。何かご質問、ご発言ございましたらお願いします。ございませんか。前回から申し上げてるんですけども、意見ありませんかって言われても、なかなか意見出しにくいので、町としてのお考えを先に示してください。そうしたら、それに対しての意見は多分言えるんじゃないかっていう感じがするので。多分この段階でこれに意見を求められても。本当にベクトルも定まっていないところになるのかな。

(委員)

前回参加できてなくて、最初皆さんの方が意見とかスピーチを聞いた上で、いろいろ思ったことがあったので、話させていただきたいと思います。長くなっちゃうんですけども、趣旨とずれてしまいかもしれないんですけど、やっぱり客観的に見て、財政的、またマンパワー的にも確保と統廃合っていう方向はなかなか不可避なんだろうなっていうことを強く感じながら聞いてました。やっぱり前提としては、池田町に住みたいと思う人を増やすっていう大きい趣旨を忘れないように、単

純に学校の数を減らすだけじゃなしに、逆にプラスのメリットをどのように生み出していくのかというところに全力をを尽くす必要があると私は考えています。特に言い方悪いんですけども、その今日の役場の方とか、先生たちはある程度理解していただけたと思うんですけど、親御さんがやっぱり一番理解しづらいと思うんです。ということを考えると、親御さんにとってこの学校がこの統合されるっていうメリットをもっと明確に分かりやすいように伝える必要があると。ただ、先ほどのアンケートの中で私がすごい驚いたのが騒がしいから嫌だっていう生徒が多いですね。それに対して先生が何をできるのかということを考えた時に、もちろん個々の指導はできるんですけど、やっぱり子供のその考えとか心をなかなか簡単にね、誘導することは難しい。だからその学級、1年に1回のシャッフルっていうのは非常に重要であって、やっぱ統廃合、統廃合っていうんですかね。学級数を増やすことがすごいとんでもない大きなメリットにつながるっていうところを親御さんにもしっかり伝える必要があると思いました。また、私もそうなんですけど、勉強そんなに好きじゃないのはそうなんです。勉強を通して、なんか友情を深めようとかコミュニケーションを深めようたって無理があると思うんです。そういうことを考えた時に、やっぱり授業以外のところをどうやって充実させるのか、そういうところがいわゆる部活になると思うんですけども。これもまた、私剣道をやってたんですね。で、剣道好きじゃなかったんですよ。一緒に剣道をやってた人がいるんですけども。なんで部活以外のもうその柔らかいもっと文化系っていうんですか漫画でもいいですしプログラミングでもいいですし学校でその好きを見つけれる環境を、いかに作っていくのかっていうところが非常に大事だと、そういう意味では学級の数を絶対増やす必要があると考えられる。あとは ICT 教育で、皆さんタブレット持てるんですけど、これ、実はかなり危険なんです。多分人生で一番辛い時期は、実は産後の子育ての時期なんです。だいたい1年間、その産後ね、赤ちゃんが生まれてから1年間の間に離婚率が半端ないぐらい、ようは精神状態とか、いろんなことが起きてしまうんです。その時に最近の傾向としては何するのかっていうと、近所の人と相談するんじゃなしにネットで調べるんですよ。で、ネットって神様みたいなことなんで、すべての答えがあるんです。だから理屈で言うと、皆さん全て子育てうまくいくはずなんです。ネットを使えば、でもできないんです。なんでかっていうとネットっていうのはみんなが興味のあるところの順番でしか答えを教えてくれないんですね。なんで例えば、育児の時に授乳と沐浴とアレルギー、まあ、皆さんしっかり教えてくれるんですよ。それはいいんですけど、じゃ、例えば、寝かしつけのコツだったりとか、腱鞘炎対策だったりとか、メジャーじゃない問題に対して答えを見つけるっていうことがお母さん達なかなかできないです。では、何を言いたいのかっていうと、普通の人が普通の知識で検索したら、マイナーな問題に対して答えにたどり着かない。だから子供がアイパッドを持った時にね。言い方悪いですけど、頭のいい子だったらいろんな調べ方ができるんですよ。でも、普通の子だったら、ありふれた問題しか答えのたどり着かないと。なんで要は ICT 教育で多分大事なのはパソコンを持たせたらいいっていう話ではなしにそのパソコンをどういう風に使えばいいのかっていうサポートしてくれる先生たちの環境づくり。そういう意味でも複数の学級が絶対必要なんだろうなっていうのは思います。あとその ICT の定義は不明確なんですけど。私、前から思ってたのがやっぱりその私が先生だったら、多分一番ややこしいのはいじめだとか、授業に対する態度を授業中を通して見るんですよ。その時に先生の目は二つしかないんで、生徒20人30人見れないんで教室にカメラを絶対つけてほしいです。そのときにいじめ抑制になるし、いわゆる

生徒が本当に授業を聞いているんだったら顔を上げてますし。もう難しい話をすると生徒の体温を測って、この子は体温低いから、多分夜更かししてたかなみたいな感じで、先生がね、前もってできるような環境づくりをしたら、より効率よく対応できるんだらうなっていうのは。あとこれは私の考えですけど、非常に申し訳ないですけど、子供が望むところと親が望むところで多少食い違ってます。親目線で行った時に、私だったら私の学校でやってほしいなっていうのは、例えば金融教育だとか、そういう社会に出た時に、必ず役に立つなっていうことを前取りして教えてあげてほしい。英語なんてそうだと思うんですけど昔は中学校だったのが今小学校みたいな。なんで社会を意識したそういう特別な授業を作ってほしい。ただそれを先生たちに求めるのは難しいので。ICT の環境を使って、遠隔で授業ができるようになってほしいと思う。今までの私のざっくりとした意見なんですけれども。その理解できないのが学校から生徒が地域の構成員の一人にとり、地域のコミュニティの核にっていうところが何回か話を聞いたりですけど、具体的にどうやるんだらうっていうのが分かってなくて例えばですよ。別に変な意味じゃないんですけど。例えば私が池田中学校に行こうとするじゃないですかでも、入れないんですよ。不審者っていうか、気軽に行けないんですよ。多分、入ろうとしたこともないんですけど、多分職員室に電話して、こうして丁寧に言ってやっというぐらいいいので、もうその自由に入れるって、やっぱ共通で、例えば大学でも、図書館ぐらいいのね、部外者使えますよとかなんか共通で使える場所を作るっていうところは新しく統合するんであったら、何か特別なものを考えた方がいいと思っています。言いたいことは以上なんですけど。一番言いたいのはやっぱりこれをきっかけにね、池田町に住みたいなって思う人たちを作る要素をどれだけ、深掘りできるのか。そう考えた時にこれ空想なんですけど、その各自自治体で個性を出すのは非常に難しいと思うんです。なぜかっていうと、財政がみんな同じようなね、職員さんの数とか、大体みんな同じのはずなので、なのでもうその企業の力を活用できたらいいんだらうなっていうのを思ってます。それは別に池田町の企業じゃなくてもいい。という大雑把な意見です。

(委員長)

ありがとうございました。皆さんにそれぞれ、何かご発言があったら、自由にご発言されてもいいかと思います。よろしくお願いします。一番重要な要素としては、例えば、子供の数が減っていくから、統廃合せざるを得ないよとか、町の予算も限られてくるし支出も増えていくので、その中では学校の数を減らしていかないといけないよという負の側面で語るのではなくて、こう良くなっていくっていうことをしっかりと説明していった方がいいんじゃないかということだったと思うんですね。それは大事な観点だろうと思いますので。必要なことだと思います。

(委員)

学校のあり方ミーティングの青い冊子の方で。今後の各学校の推移の大体これぐらいになるだろうという次の推移が 7 ページ目にあると思うんですけど。保護者としては、統合するにあたって、どこの小学校とくつつくかというのは、結構地域性も踏まえてすごい重要になってくると思うんです。これを見たときに人数の減り方も検討した時にどこどこが統合してっていうのをある程度人数が分かるもんだとは僕は思うんですよ。少ないところ同士が統合して三つ四つ統合して一校にするのか、バランスよく統合してバランスよく人数がなるように統合するのかあとは地域で近いところで統合させるのかそれは多分保護者にとっても結構どことくつつくかというのは今後統合する上ですごく重要になってくると思うんで、そういうところはどういうふう考えてるのかなとい

うふうに思います。

（委員長）

少し先の話なのかもしれませんが、今のお考えがあればお願いしたいと思います。

（教育長）

その 16 ページになりますけれども令和 17 年のところですよ。今は予想でしかないわけですが。令和 17 年のところで、79 なんです。ずっとあります一応、今の所 35 人なんです。1 クラスがその 35 人の 35 人を超える 70 だと 2 クラスになりますね。それから 100 いくつで 3 クラスですね。そうすると、もう令和 17 年で、もうみんなこれ 3 クラス規模なんです。池田町全部集めても 3 クラス規模なんです。ですから、そういうふうな最終的なこの見方はあるわけですが、じゃあ、そこまでの間でどういうふうにしていくかということについては、やはりこれから最終的なが見えてくるわけですが、その途中にいきなりぼーんと一つなのかとか、そこら辺はいろいろとご意見伺いたいです。今日先ほど地域社会というのを outsizing させていただきましたけれども、小学校そんな乱暴にぼーんと一つにすると、そうするとうちの地域、誰もお祭りに来ないじゃないか、いろんなこう、本当に地域ごとにですね、先ほど委員さん、地域の核ってというのはどういうことかっていうような話がございましたけれども、学校が今まで果たしていた地域の核ってなんだろうっていうところから、そこは地域の方々とご相談さしあげながら、今委員さんからいただいた学校の中にみんなが入れるスペースがあるんじゃないかっていうことをいただきましたけど、そういうような形でそういうことでこう解決できていくものなのかどうかということについてはご意見いただきながら考えていきたいというふうに思います。

（委員長）

ありがとうございます。最初にどこまで持ってくとか、そういう話ではなくて、今回の会議の中でどういうふうに決めていくかっていうことで、それについて特に具体的に今お考えがないのであればないということでもいいと思うんですね。それで、これからまた皆さんのご意見を伺いながら、それが調整していくことだと思ってます。ということなら、それでいいのかなというふうに思うんですけど、

（教育長）

はい、今のところはそういう意味ではございません。

（委員長）

だから現在ご心配のように、数でもって合わせて統合するというのはまずありえないと思うんですね。だから、その途中のところでどういうふうにするか、今の教育長のお話の中ではいきなり一つってことはまだ決めてらっしゃらないという。ですから、そのプロセスがひょっとしたらあるのかもしれない、その中でどういうふうにするのかということについては、まだオープンであると。今後の中で決まっていく。そういうことかなと思いますので、根本的にこんなことを言うと叱られそうなのもあるんですが、先ほどのご発言は、必ずしも紙に準拠してなかったですね。拾いにくかったんですけれども、いろんな意見の中で気になったのは大野町や揖斐川町の真似をすることはないというご意見だったんですけど、無理があると。実際問題ですね、私岐阜県のいろんなところでいろんな仕事をさせていただきます。けれども検討してないところがないぐらい検討されたりしています。もうしちゃってるところ、関ヶ原町なんかは終わっていますし、大垣市の中で

の、上石津にするのも全部統合しましたし、海津の方もすでにやっているようなところがあって、多分西濃地域で全く触れていない、今非常に検討しますよと言っていますけれども、しそうにないのが垂井町ぐらいってところなんじゃないかなと。あとはほぼ進めていくというところなので、これは人口的な部分とか、財政的な部分とか、諸々、そういう環境なんだというところで、それは前提にする話なんだろうと。それは前提じゃないよっていう話なんかは無理だと思いました。それと、地域の核としてってお話なんですけど、これ本当に将来的にも小学校とかが地域の核になっていくのかなっていうのは、明治の頃から結構ね、学校をもっていうのはすごい運動としてあって、それが今現在直接繋がると思うんですけど、団塊の世代の方がすごく多くて、それで戦後の社会の中ではというふうだったと思うんですけど、圧倒的に人口が少ないお子さんたちを中心に地域がまとまっていくってするとありえるんですかってことです。疑問です。世の中というのは人口が多いところに向かってまとまっていったり、いろんなアクションが起こっていくので、高齢者の方であったり、子育て世代になってますかね例えば今後高齢者を含めた防災をどう考えるのかというところで地域作りをしていこうというのなら考えられる。僕は将来の地域というものが非常に少なくなってるお子さん中心に今までそれがそうだったからといって、将来そこを中心に考えるんだという地域づくりが将来的に本当にそうなるのかなっていうのは疑問に思っているところなので、おそらくその地域の形っていうのはだいぶ変わってくるだろうということを前提にして考えないといけないのかなというふうに思うところです。おそらくご意見としてたくさんそういう声も寄せられたと思うんですけども、未来のその地域の形を考えたときに、どういった方がみえて、どういった動きがあるのかっていうことを想像していくと、今現在とは違った形になっていくこともあるんじゃないかなというふうに、それが現実的じゃないのかなっていう。はい、どうぞ。

（委員）

すいません。今日は発言をするつもりは一切なかったんですが、確認だけさせていただかないとですね。方向性がだんだん違って質問等が出てくるんじゃないかなと思っています。6月16日に委員長宛てに町長の諮問書が届いて、我々はそのコピーをもらっておるんですが、その中で諮問されているものは保育園及び小中学校の適正規模、適正配置に関する基本的な方針。二つ目が前後に掲げる適正化のための具体的な方策についてをこの場で議論するところであって、先ほどPTA会長さんの方に言われたようにどこの地域に小学校を持ってくるかとか、どこの地域に中学校を持ってくるかというような、そういうふうなことがこの会では議論にはならないというふうに解釈してよろしいですか

（教育長）

本当にあり方の検討していただくことでありまして、やはり行政としての責任がございますので、最後にこことここで統合する、こことここで統合するということについては今は想定にはしていません。

（委員長）

では今日ここまでのところということなので次回ぐらいまでにはある程度、基本的な方向性の話ということですから。なかなか出しにくいところなんです。そこら辺は何か出していただいているということと、それから現実に行っている自治体さん多いので、そういった事例の紹介というか、今日文科省の資料のご説明もありましたけれども、文科省はどちらかというと、こうしろと

進めていくというよりは、統廃合も起こるだろうから、その時にいい事例はこういうところですよみたいな形でサポートしますよ、という姿勢が強いのかなっていうふうに思ってます。ですから、この会議でも、周辺あるいは、少し離れた場所ですね。こういうふうにして取り組んで、こういう成果が得られてるということで、ご紹介いただいた方がいいのかなと思います。今日ご意見あったように、後ろ向きに仕方がないねっていうことではなくて、そのことによって何ができていくのか例えばインクルーシブとか、特別支援とか、お話ではありましたが、今いくつかの自治体の中では、学校を統廃合する中で余裕を持たして、そういった教育に特化した学校を別に作っていったりするような取り組みも結構たくさん行われている。ですから、そういったことも可能になるかもしれないとか、そういった様々な事例をご紹介いただきながら、進めていきたいかなと思うんですけど、いかがでしょうか

（教育長）

はい、ありがとうございます。本当に先ほど委員さんからいろいろ、本当に誰もが入れるようなスペースがあるんじゃないのかっていうことをいただきました。次回はいわゆる事務局として方針としてこんなふうに進めていきたいということを出させていただきます。その中で、こういう観点が落ちてくるんじゃないのかとか、これはどうかってようなことをまたここで議論していただきたいと思います。次を11月くらいにできればなっていうふうに思っておりますけど、それまでの間でも今、今日議論させていただきました、これから事務局が案を作っていくと、いやこういう観点は絶対落とすなよってというようなことについて、ぜひ委員の方の中からでもいただければ、その中で含めて考えさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

（委員長）

何か全体として、今までのところでご発言ございますか。はい、どうぞ。

（委員）

確かに意見を出しにくい会議だなと思うんですけども、この学校のあり方に含めて、その保育園、認定こども園、幼稚園などもそのあり方も含めて検討していくんですけども、私が今関わっているその保育園、認定こども園についても、看板は同じなんで、子どもたちの施設なんですけれども、本当に制度が違ったり、例えば保育園でもあり方が本当に財源のところとか、制度は幼稚園と違ってたりはしますし、もう本当に、国のお金をいただいてしているって言っても、交付金であったり、財源化されてる部分があったりですが、細かく言えば障害者保育だけは保育園、認定こども園でも一般財源化されていたり、というようなことがあったり。でも元々はやっぱりその国のお金で動いていくってところがあったりしてですね。なかなかその私どもが地元でなんとか頑張ってやっていこうと思っても、国全体の動きに影響受けやすいってところが私は学校教育のことよく分からないんですけど、多分そういう側面が大きいんじゃないかと思っているんですけど、子供たちとか、それから保護者の皆さんの意見をよく聞くというところは、もうそれは絶対に間違いのないことで、そういう要望を聞いていくというところですけども、実際どういうふうに、これからの形を作っていくかっていう時に、これからいろんな華々しく、なんとか頑張っていこうっていうところは難しいかなっていう部分も持ってます。やっぱり変なふうに聞こえてしまうかもしれないですけど。どういう風に豊かに先細っていこうっていうのか。というか、終わりを迎えるって言うんじゃないんですけど、どういうふうに豊かに小さくなっていくかっていうような環境を持

って取り組まないと、なんか頑張っているところまでは頑張ったけど、やっぱり駄目だったみたいな、そういうふうにはなれないんじゃないかなっていうようなところを、現場の感覚としては持っているんですよ。本当に今、保育とか、この就学前の子供達の制度が子育て支援施策も含めて複雑すぎるので、なかなか保護者の皆さんに伝えて、住民の皆さんとかに伝えて分かっていた上で、こう次は進むっていうのは難しいと思うので、その点については、やっぱり我々のようなこの企業しているものが何とか責任をもって、地元のデメリットにならないようにっていうふうな責任を持ってるんですが、責任を持っているつもりなんですけれども、すごい華やかな方向に向かってっていうところではないかなっていう。本当に地に足をつけながらどうやってみんなで先細っていくとか、その豊かに小さくなっていく方法を考えていかなきゃいけないなということを感じております。

(委員)

付け加えて、ぜひ、お伝えしたいですけども、学校のあり方ミーティングのこの 6 ページ目ですね。一番右側は平和 17 年度。一年生の子供の予想数 79 人なんです。先ほどの保護者の代表の方がどこの小学校が統合かというお話ございましたし、また委員長さんの方からも子供と数で、学校をどうこうするとは言わないとおっしゃられたんですけども、79 人っていうことは、これもう八幡小学校と温知小学校を二つ残したとしても、1 学年 1 クラスです。ですから。もうこれ残酷な現実がもう 10 年後迫ってるんです。豊かな近未来が迫っているということですから、これからさあ盛り上げていくということではなく、美しく散っていく。そういうことだと思います。

(委員長)

はい。要するに、数が少なくなっていくっていうことに対して、その豊かに小さくなる、そういう観点が教育関係者にはある。それはそうとして、今日の会議も、いきなりもう小学校の話になってしまって、これが保育の皆さんに出席いただいているというところでは、その関係どうしていくのというところをお伺いできると。

(教育長)

ありがとうございます。保育園のあり方のミーティングの中でもですね。出たんですけども、やはり小学校って連動する部分が多くて、その地域の中から小学校が、じゃあ他の学校と統合っていうのと考えた時に、この園だけ残ってるのっていうような話もあったり、あるいは保育園が先に行って保育園が大きくなってきた。で、また小さい小学校へ戻ってくのっていうのがあるので、これはやはり同じような感覚で同じようなペースで考えたいというのが基本的な考え方です。

(委員長)

これは規模感というか。これはまた考え方があるのかなというふうに思っています。ニーズっていうか、やってることも違ったりする。今日のかきっぷりですと、教育機関の中の位置づけみたいなところですけど、保育ニーズっていうところがまた違うところで、それをどう考えるのかというところだと思いますんで、これを機会に保育の場所と教育の場所とをなるべく寄せていって、他の地域ではあります。違った形っていうのもあります。基本的な方針の中で、この会議として保育をどのようにして。せっかくお越しいただいておりますし。そうですね。まず小学校の話をして、そういう段取りでよろしいでしょうか次のところもよろしくお願いします。

(教育長)

そういうところも付随してどれだけ出せるか考えます。

（委員長）

結局そのようなことで、できればということで。次、大体の方針を事務局の方から示していただいて、それに対して皆さんからご発言をいただきます。そういう形でお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。では事務局の方に進行をお返しします。

（教育長）

ありがとうございます。我々としても事務局として案を作ってまいりますけれども、こういう観点をぜひ入れて考えろっていうようなことについて、ご意見いただきたいと思いますので、よろしく願います。次回にはそういうものだと思います。今お手元にですね、一枚紙を回させていただいております。あり方ミーティングで行かせていただいた時に、保護者の意見をきちっと聞いてほしいっていうような話がございまして、今日のこの会議というのはいろいろ、企業の方、あるいは区から、地元の方というような方で構成しておりますけれども、保護者の方、来ていただいておりますけれども、やはり保護者の意見が大事じゃないかという意見がございまして、小委員会とか、また皆さんにも集まりいただくのはあれですけど、小委員会というようなものを編成させていただきたいと思います。ご覧ください。設置目的ですけども、考えるにあたり保育園、こども園、あるいは小学校と幼稚園等の保護者からの意見を聞いていただき、それをおまとめいただける、そんな会をということで、小委員会の編成でございまして、すいません、森副委員長さんにはご無理をお願いしまして、小委員会の委員長を森副委員長さんにはお願いし、光井先生、それから佐藤さんからは保護者代表で来ていただいている方、加納先生から先は、各機関の長ということで、こういうメンバーで小委員会をすいませんが、作らせていただきたいと思います。10月と書いてございますけれども、小委員会の会議予定ですけども、そこでまたこれ保育園等々調整させていただきますけれども、各保育園、幼稚園、小学校等の保護者代表との話をそこで聞いていただく。で、それを4番ですけども、聞いていただいたのを次回のところで報告していただくということで、ワンステップもう少し保護者の方の意見を、ということでございました。時間の方も叱られてしまいまして、この間の七時から八時でやったんですけど、そんな出にくい時間設定するんじゃないっていうことで、これ確かに親さんにとってはそうなので、今あるのは三時半から四時半ぐらいとかいろいろ考えておりますけれども、そんなことで委員会を設置したいと思います。よろしく願います。

（事務局）

それでは次回の検討委員会の開催は今年年末まででもう1回第3回の検討委員会を開催させていただきたいと思っております。また、委員の皆様の日程調整を行いながら開催日を決定してお知らせさせていただきますので、よろしくお願いいたします。それでは第2回の池田町学校あり方検討委員会を終了させていただきます。委員の皆さま、本日はありがとうございました。